

書評「再生医療と美容」

富田 靖

名古屋大学大学院医学系研究科皮膚病態学分野

現在の病気に対する治療とは、悪い臓器を外科的に取り除くか、他人の臓器ないしは人工臓器に置き換えるか、あるいは薬物によって正常な状態にコントロールしてゆくことである。悪い臓器を正常な臓器に修復することが、本当の治療であるが、これは夢の治療と考えられていた。しかし科学の進歩は留まるどころなく、正常な臓器を再生する究極の医療の研究が近年展開され、組織の構造も単純で再生能力の強い皮膚や骨においては、組織再生が実用化されつつある。一方、豊かな生活に伴い、病気ではなく正常な状態であっても、より美的な状態に変える美容外科、あるいは老化した組織を若い組織に戻す美容医療への要求が日本の社会にも強くなってきた。ここで美的な状態に換える美容医療と、正常な組織に置き換える再生医療とが結びついた訳である。日本における美容医療に応用されている再生医療の現状を、その分野の第一人者である上田 実 教授が編集した「再生医療と美容」が南山堂から時宜にかなって出版された。

上田教授は名古屋大学医学部口腔外科学講座を主宰し、培養皮膚,培養粘膜の早くからの臨床応用に加えて、培養骨,培養軟骨の作製に成功し積極的に産学共同体制を進める一方、さらに培養角膜,培養唾液腺などについても研究を進めており、再生医療の実現に日本はもちろん世界に貢献してきた。それは日本歯科医学学会、日本医師会など日本はもちろん海外から、数々の学術賞を授与されてきたことから容易にわかることである。また先生は平成 15 年から東京大学医科学研究所に設立された幹細胞組織医工学(歯胚再生学)寄付研究部門の教授も併任され、再生医療の研究を加速しつつある。このような上田教授が本書を編集されたため、執筆者のほとんどが第一線で活躍中の先生の共同研究者あるいは関係者で占められている。

本書は、現在の日本における再生医療の現状と課題、美容医療の現状と課題そして展望を総論として要領良く解説し、各論ではさまざまな美容医療において実用化しつつある再生医療について、実際に研究や治療にあたっている第一線の専門家が論じている。各論のテーマは、培養自己線維芽細胞を注入したしわの治療、培養自己表皮細胞を移植した白斑の治療、脂肪由来幹細胞を注入する豊胸術や皮膚ないし脂肪萎縮症の治療、毛髪再生療法研究の現状、骨髄由来細胞の注入による潰瘍の治

療、生体分解性ポリマーを用いた眼窩底骨折治療、歯槽骨再生医療、歯間乳頭再生医療などであり、専門分野の異なる読者に対しても容易に理解できるように図表や臨床写真を豊富に駆使して、理論から治療術式に至るまで解りやすく記述されている。美容医療というと、最近マスコミでもよく取り上げられるプチ形成手術を思い浮かべるが、本書で扱われているのは、プチ手術とは全く異なる、再生医療の世界であり、今までの美容医療の概念を全く変える世界が開けつつあることがよくわかる。再生医療による美容医療であれば、美容医療の将来は明るく、その発展はあらゆる人に質の高い豊かな生活をもたらすであろう。本書は、発展途上の再生医療による美容医療の理論と実際、そして明るい将来を系統的に解説した本邦初のモノグラフであり、美容形成外科、美容皮膚科に興味のある医師や医療関係者にぜひ一読することをお勧めしたい。

再生医療と美容

上田 実 編

B5判 135頁

定価8,400円(本体8,000円+税)

発行 南山堂